

環境に配慮した商品・サービスの提供

ニチレイグループは、原料や商材の調達、生産・加工、保管や輸配送など、さまざまな活動を行っています。こうした活動を通じて発生する環境負荷をできる限り抑制するために、各事業会社の商品やサービスに応じた環境配慮に努めています。

容器包装における環境配慮  
ニチレイフーズ

**サイズダウンによる容器包装重量削減**  
容器包装として使用する資材の具体的な削減目標値を設定（→P29参照）し、容器包装の省資源化やリサイクル性の向上に取り組みました。

①トレイのサイズダウン 2005年8月～

プラスチック使用量を14トン削減



②トレイ・フィルムのサイズダウン 2005年6月～

プラスチック使用量を18トン削減



③3ピース缶から2ピース缶へ 2005年4月～

缶重量を157トン削減



脱アルミ蒸着による  
リサイクル性の向上

冷凍食品の包装には、品質保持上の理由からアルミ蒸着包装が採用されている商品があります。しかし、アルミ蒸着フィルムはポリプロピレンなどのプラスチック素材にアルミを蒸着した複合素材なので、リサイクルが難しい素材です。

そのためニチレイフーズでは、アルミ蒸着をしないプラスチック素材に切り替える検討を開始しました。品質テストを実施し、品質に影響がないことを確認したうえで、順次切り替えをしていきます。

環境に配慮した商品の調達・提供  
ニチレイフレッシュ

薬剤の使用を低減して養殖した  
えびの提供

2004年度より、給餌や薬剤の使用を低減した自然にやさしい養殖方法である「粗放養殖」で養殖されたえびの調達を開始しました。投薬による水質汚濁がなく、潮の干満を利用して収穫を行うこの養殖方法は、自然の力を存分に活かした養殖です。今後も、このように環境に配慮した方法で養殖されたえびの取り扱いを拡大していきます。



粗放養殖池

飼育時に薬剤を使用しない  
商品の提供

おいしさや安全・安心とともに、環境に配慮された畜産素材の取り扱いを拡大しています。その一つである「FA チキン（FA: Free from Antibiotics）」は、全育成過程を通じて抗生物質、合成抗菌剤を投与しない飼育方法を確立し、食品の安全性はもちろんのこと、土壌への影響低減などにも寄与しています。



FA チキンの養鶏場

環境に配慮した物流サービスの提供  
ニチレイロジグループ

2006年4月に施行された改正省エネ法では、運輸部門（運輸業者、荷主企業）に初めて規制が導入され、物流分野におけるCO<sub>2</sub>排出削減への取り組みが重要視されています。

ニチレイロジグループでは、荷主様に対して共同配送など物流の効率化を積極的に提案し、省エネルギー、CO<sub>2</sub>排出削減につなげています。

（→P12「ハイライト2005 ニチレイロジグループ」で詳しく紹介しています）

化学物質管理

有害化学物質の取扱いや、大気／水域への排出などについては、法規遵守を原則とし、事業所ごとに負荷に応じたテーマおよび目標を設定しています。

PCBの管理

現在、PCB含有のコンデンサーなどを約300基所有しており、法に定められた基準に従って保管し、保管状況を届けています。

2005年度は、国の監督のもとPCB廃棄物処理を実施する日本環境安全事業株式会社に所有機器に関する情報（重量、保管場所など）の提供を行う早期登録を実施しました。この登録はPCB廃棄物処理施設（全国5カ所）に計画的・効率的に搬入し、安全に処理していくための実施されているものです。今後、全国5カ所の処理施設の操業計画に基づき処理を実施していきます。

PRTR対象物質の管理

2005年度はPRTR\*届出対象物質（取扱量1トン以上）は、ありませんでした。ニチレイグループでは化学物質の適正管理を継続実施するとともに、その使用による環境負荷の低減に努めていきます。

\*PRTR法

人の健康や動植物の生息、生育に支障を及ぼす可能性のある化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたかなどのデータを集計し、公表する仕組みについて定めた法律

フロンの使用・管理

食品工場や物流センターの冷凍設備の冷媒として、主に指定フロン（HCFC R-22）を使用しています。冷媒は、密閉された冷凍設備の中で循環しているため、大気へ放出されることはほとんどありませんが、冷凍設備のメンテナンス時などに少量の洩れが発生します。

指定フロンは、オゾン層破壊や地球温暖化の原因物質といわれており、2020年には全廃されます。このため、自然冷媒（オゾン層破壊係数・地球温暖化係数が小さな冷媒）などへの代替を進めています。

2005年度は、11月に稼働を開始した（株）ロジスティクス・ネットワーク 郡山物流センターに、自然冷媒を活用した最新型冷却システムを採用しました。

アスベストの使用状況

使用状況の調査を実施した結果、4カ所の事業所で飛散の恐れのある石綿（建物の屋根等への吹付け）の使用が確認されましたので、除去等の飛散防止措置を実施しました。

今後も、建物の解体などの際には、関係法令や規則を遵守し、適切な石綿の飛散防止策を実施していきます。

土壌汚染への対応

土地の売却や賃貸時には適切な情報開示を実施するとともに必要に応じて、土壌汚染状況の調査および適切な対応を実施しています。

2006年度は、博多工場跡地の調査を実施しました。

水域・大気への排出抑制

水域への排出

食品工場で洗浄に使用した水は、有機物（食品のかすなど）や洗浄剤、殺菌剤などを含んだ排水となりますが、法律で定められた排出基準以下になるように処理したうえで、工場外に排出しています。

2005年度は、（株）ニチレイフーズ白石、長崎、山形の各工場において廃水処理設備の増強を実施しました。

大気への排出

食品工場では、加熱や洗浄のために使用する重油やガスなどの燃焼時にNO<sub>x</sub>やSO<sub>x</sub>が発生します。各工場では、ボイラーなどの燃焼設備を適正に運転・管理するとともに、法律で定められた排出基準を遵守し、総排出量削減を図っています。

また、事業所構内に停車する車両に、アイドリングストップを呼びかけたり、エンジンを停止しても冷凍車の冷凍機を動かせるように専用の電源を設置するなど、物流車両の排気ガスやCO<sub>2</sub>排出削減にも取り組んでいます。